

令和 7 年度 大阪府文化事業（主な実績）

施策 の方 向性	事業名	主な実績
A	大阪府芸術 文化振興補 助金	【概要】 子どもや青少年を中心とした府民に、優れた芸術文化の鑑賞機会などを提供し、芸術文化の振興を図るため、府内の芸術文化団体が行う活動に補助金を交付する。(上限 100 万円)※大阪府文化振興基金を活用 【実績】 ○令和 7 年度分 応募 54 件、採択 13 件、採択事業における観客満足度 98.2% ○令和 8 年度分 応募 51 件、採択 13 件 ○事業説明会を 2 回開催（12/18（平日夜）参加者 17 名、1/17（休日昼）参加者 21 名） ○個別相談会を開催（1/17（休日昼）参加者：芸文補助金・子どもパフォ補助金あわせて 7 組） ○昨年度大幅に改定した交付要綱及び募集案内の運用を開始した初年度となった。募集案内とそれに付随する事務手続き案内に関しては説明文を簡素化し読みやすくしたり例示を盛り込んだりしたことで、事業者からの問合せ時に一緒に該当ページを確認していただくなど対応しやすい形にできた。 ○昨年度に新たに作成した Q&A も、募集案内を補完するよう、よくある問合せや間違いやすいポイントを記載していることで、案内に非常に役立っている。実績報告提出時のアンケートでも、様式等の改善について、採択事業者から「改善が見られる」「見やすくなった」とのお褒めの言葉をいただいている。 ○令和 8 年度の応募件数は昨年度とほぼ横這いで多くの申請があった。うち新規の応募が両補助金とも 60%程度となり、補助金の認知度の高まりが感じられた。報道提供による情報解禁日は事業募集の 1 週間前であり前倒しは叶わなかったが、パンフレットの作成・納品を前広に実施したおかげで、情報解禁日当日から府内で広報を開始できたのも、本年度の成果につながったと考えられる。 ○一方で、応募事業について、応募要件を満たさない事業や文化芸術要素が少ない事業も多数見られ、現代の文化芸術の多様化を実感するとともに、各種提出書類の確認作業について、担当職員の業務負担が高まっていることが懸念される。 ○引き続き、府内の文化振興に寄与する補助金制度の構築を目指し改善を図るとともに、丁寧な説明と認知度の向上に努めていく。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本補助金は、府内の芸術文化団体による活動を支援し、子どもや青少年を中心とした府民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供する重要な制度である。今年度は採択事業 13 件が実施され、観客満足度も高い水準となっており、府民が文化芸術に触れる機会の創出という事業目的に一定の成果をあげている点を評価する。 ○また、補助金制度の周知と申請者の理解促進のため、事業説明会を平日夜間および休日昼間の 2 回実施するなど、参加しやすい環境づくりが図られたことは評価できる。加えて、募集案内やパンフレットのレイアウト改善、図表の活用、Q&A の整備など、申請者の利便性向上に向けた取り組みが行われたことは、制度の透明性と利用しやすさを高める点で有効であったと考えられる。 ○広報活動の強化や資料の改善により、新規申請者の割合が高い状況となっていることは、本補助金制度の認知度が広がっていることを示す成果である。一方で、応募要件を満たさない申請や文化芸術との関連性が十分でない事業の応募も見られており、制度の目的や対象事業の理解をより深めてもらうための情報発信の工夫が求められる。 ○また、採択事業の実施後に提出される事業報告について、内容や記載方法にばらつきが見られることも課題として挙げられる。補助金制度の適切な運用と事業成果の把握のためには、報告書の記載例やフォーマットの整備などにより、申請者が理解しやすい報告方法を示すことが望まれる。 ○さらに、申請件数の増加に伴い、提出書類の確認作業などにおける担当職員の業務負担の増大も懸念される。今後は、申請段階でのチェック体制の工夫や審査スケジュールの明確化などを通じて、制度運用の効率化を図ることが望まれる。例えば、面接審査の日程を募集段階から案内するなど、申請者が準備しやすい環境を整えることも有効と考えられる。

		○本補助金は、大阪府内の文化芸術活動を支える基盤的な制度として重要な役割を担っている。引き続き制度の周知と改善を重ねながら、府内の多様な文化芸術活動を支援し、次世代育成と府民の文化芸術への関心向上につながる取り組みの拡充を期待する。
A	輝け！子どもパフォーマー事業補助金	【概要】 文化を通じた次世代育成を図るため、府内の子ども（おおむね6歳から20歳まで）が参加し発表する活動を実施する団体又は個人に対して補助金を交付する。（上限30万円）※大阪府文化振興基金を活用 【実績】 ○令和7年度分 応募34件、採択18件 ○令和8年度分 応募31件、採択15件 採択事業における子どもの参加満足度95.9% 採択事業における観客満足度99.4% ○事業説明会を2回開催（12/18（平日夜）参加者17名、1/17（休日昼）参加者21名） ○個別相談会を開催（1/17（休日昼）参加者：芸文補助金・子どもパフォ補助金あわせて7組） ○昨年度大幅に改定した交付要綱及び募集案内の運用を開始した初年度となった。募集案内とそれに付随する事務手続き案内に関しては説明文を簡素化し読みやすくしたり例示を盛り込んだりしたことで、事業者からの問合せ時に一緒に該当ページを確認していただくなど対応しやすい形にできた。 ○昨年度に新たに作成したQ&Aも、募集案内を補完するよう、よくある問合せや間違いやすいポイントを記載していることで、案内に非常に役立っている。実績報告提出時のアンケートでも、様式等の改善について、採択事業者から「改善が見られる」「見やすくなった」とのお褒めの言葉をいただいている。 ○令和8年度の応募件数は昨年度とほぼ横這いで多くの申請があった。うち新規の応募が両補助金とも60%程度となり、補助金の認知度の高まりが感じられた。報道提供による情報解禁日は事業募集の1週間前であり前倒しは叶わなかったが、パンフレットの作成・納品を前広に実施したおかげで、情報解禁日当日から府内で広報を開始できたのも、本年度の成果につながったと考えられる。 ○一方で、応募事業について、応募要件を満たさない事業や文化芸術要素が少ない事業も多数見られ、現代の文化芸術の多様化を実感するとともに、各種提出書類の確認作業について、担当職員の業務負担が高まっていることが懸念される。 ○引き続き、府内の文化振興に寄与する補助金制度の構築を目指し改善を図るとともに、丁寧な説明と認知度の向上に努めていく。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本補助金は、府内の子どもや青少年が文化芸術活動に参加し、その成果を発表する機会を創出することにより、次世代育成と文化芸術の振興を図る重要な制度である。今年度は15件の事業が採択され、子どもの参加満足度95.9%、観客満足度99.4%と非常に高い水準を示しており、子どもたちが主体的に文化芸術活動に関わる機会を創出するという事業目的において一定の成果をあげている点を評価する。 ○また、制度の周知と申請者の理解促進のため、事業説明会を平日夜間と休日昼間の2回実施するなど、参加しやすい環境づくりを行った点は評価できる。加えて、募集案内やパンフレットのレイアウト改善、図表の活用、Q&Aの整備などにより、申請者が制度を理解しやすい環境を整えたことは、制度の利便性と透明性の向上につながる取り組みであったと考えられる。 ○広報活動の強化や資料の改善により、新規申請者の割合が高い状況となっていることは、本補助制度の認知度が広がっている成果といえる。一方で、応募事業の中には応募要件を満たしていないものや、文化芸術としての位置づけが十分ではない事業も見受けられることから、制度の目的や対象事業の考え方について、より明確な情報発信を行う必要がある。 ○また、採択事業の実施後に提出される事業報告について、内容や記載方法にばらつきが見られることも課題として挙げられる。補助金制度の適切な運用と事業成果の把握のためには、報告書の記載例やフォーマットの整備などにより、申請者が理解しやすい報告方法を示すことが望まれる。 ○さらに、申請件数の増加に伴い、提出書類の確認作業などにおける担当職員の業務負担の増大も懸念される。今後は、申請段階でのチェック体制の工夫や審査スケジュールの明確化などを通じて、制度運用の効率化を図ることが望まれる。例えば、面接審査の日程を募集段階から案内するなど、申請者が準備しやすい環境を整えることも有効と考えられる。

		○本補助金は、子どもや青少年が文化芸術に主体的に関わる機会を生み出し、次世代の文化芸術活動を支える人材や観客の育成につながる重要な制度である。引き続き制度の周知と改善を重ねながら、府内の多様な文化芸術活動を支援し、子どもたちの感性や創造性を育む機会の拡充につながる取り組みを期待したい。
A	半額鑑賞会	【概要】 優れた舞台芸能・芸術を通常の半額料金で鑑賞する機会を府民に提供し、芸能・芸術愛好家の裾野拡大を図る。（※府、（公社）日本演劇興行協会、（独法）日本芸術文化振興会の３者の共催事業として運営） 【実績】 ○府政だよりの、４・５月合併号、７月号、９月号、１０月号、令和８年１・２月合併号、３月号に掲載した。（計６回） ○府政だより所管課（広報広聴課）による年間の掲載計画に変更が生じたため、１２月号への掲載がなくなった。掲載回数が減少したものの、毎回多数の申し込みがあり、定員を大幅に超える公演も多々あった。 ○令和８年度においても、継続して事業を実施する予定である。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は、優れた舞台芸能や芸術を通常の半額料金で鑑賞できる機会を府民に提供することで、文化芸術の鑑賞機会の拡充と芸能・芸術愛好家層の裾野拡大を図る取り組みである。大阪府、日本演劇興行協会、日本芸術文化振興会の三者の連携により実施されており、行政として大きな財政負担を伴わずに府民の文化芸術鑑賞機会を充実させることができる点は、本事業の大きな特徴であり評価できる。 ○今年度は府政だよりへの掲載回数が計画から１回減少したものの、各公演への申し込みは依然として多く、定員を大きく上回る応募が見られるなど、府民の関心の高さがうかがえる。また、近年は申込数が増加傾向にあり、文化芸術鑑賞への関心の高まりや、本事業の認知度が広がっていることがうかがえる。特に話題性の高い公演に対して応募が集中するなど、舞台芸術への関心を喚起する機会として一定の役割を果たしている点を評価したい。 ○本事業では、府政だよりという紙媒体を活用した広報を継続して行っており、インターネットを中心とした情報発信だけでは届きにくい層にも情報を届けることができる点は重要である。少子高齢化が進む中、文化芸術の鑑賞者層の高齢化も指摘されていることから、紙媒体とデジタル媒体を組み合わせた広報を行うことは、幅広い世代に鑑賞機会を提供する上で有効な取り組みといえる。 ○また、本事業は東京や福岡など限られた地域でのみ実施されている制度であり、全国的に見ても貴重な取り組みである。大阪府として継続して取り組むことにより、府民の文化芸術鑑賞機会の確保と、舞台芸術の裾野拡大に寄与することが期待される。 ○今後も、各劇場や関係機関との連携を維持しながら、府民が質の高い舞台芸術に触れる機会を提供する取り組みとして継続していくことが望まれる。本事業を通じて文化芸術鑑賞の入り口となる機会を創出し、より多くの府民が舞台芸術に親しむ環境づくりにつながることを期待したい。
A	メセナ自販機、大阪府文化振興基金	【概要】 寄附型自販機（メセナ自販機、次世代育成型メセナ自販機）の普及を促進するとともに、基金への寄附文化の機運を醸成する。 【実績】 < 寄附型自販機 > ○メセナ自販機の広報チラシを初めて作成し、庁内や商工会議所等にて配架したり、バンダー等へ送付 ○寄附型自販機のブランド力及び認知度向上のため、デザインを統一したトップボードを作成（今後は全自販機統一で活用予定） ○初となるアイスクリーム自販機単独設置の公募に向け、設置予定施設と調整中 ○次世代育成型メセナ自販機の継続設置 令和８年３月３１日をもって協定期間満了の設置場所について継続して自販機を設置すべく公募を実施 公募実績（令和８年４月に設置予定）： 大手前庁舎内で１台／咲洲庁舎内で１台／府民センター内で３台（うち２台は新規）

	○他課との共管自販機の設置の推進 設置実績：文化財保護課（大阪教育ゆめ基金）と共同で1台設置（8月） 地域保健課（ギャンブル等依存症対策基金）と共同で3台設置（9月） 府立図書館（大阪教育ゆめ基金）と共同で2台設置予定 <基金> ○令和6年度の寄附の活用について実績報告書を作成し、府HPに掲載（寄附者にはメールでも案内） ○りそな銀行大阪府内全87店舗にてパンフレット配架（7月） ○大阪商工会議所のメールマガジンに広報記事掲載（9月配信） ○新規・継続に関わらず、基金への関心を高め寄附獲得につながるよう、ノベルティ（もずやんおおきにステッカー）を作成しお礼状とともに寄附者へ配付 <寄附型自販機・基金共通> ○パンフレットやチラシを活用し、あらゆる機会で開催・広報（東京事務所を含む市内への配架、文化課所管事業での配布、及び新年互例会におけるブース設置） ○府主催事業において自販機業者提供の協賛飲料を活用し、基金や自販機のさらなるPRを実施（本館活用事業においては、3分程度で基金の紹介） ○令和8年2月末の寄附申込 7,835,421円（前年度比90.9%） ○寄附収入の大部分を占める自販機の設置・普及のため、今年度は広報ツールの作成及び広報ツールを活用した、下記周知活動に力を入れた。 ・エントリー可能なイベントには全てエントリーし、パンフレット及びチラシ配架 ・興味・関心を引くために、デザイン性の高い広報データを作成しHPへ掲載 ・一般購入者の認知度を高めるため、自販機本体へ寄附型自販機の広報ツール貼付 ○今年度は、基金及び寄附型自販機のPRは十分にできたと自負する一方で、実態として寄附に繋がらないのが課題である。また、飲料商品の高騰による影響か自販機の売上が減少したり管理維持費との兼ね合いで自販機の撤退が相次いでいる。 ○次年度は、自販機増台により寄附額減少をカバーすべく、引き続きあらゆる機会を通して営業活動を行うとともに、企業等へのアプローチも検討していく。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は、寄附型自動販売機（メセナ自販機・次世代育成型メセナ自販機）の普及と大阪府文化振興基金への寄附を通じて、文化芸術活動を支える財源を確保するとともに、府民の寄附文化の醸成を図る重要な取り組みである。今年度は、広報チラシの新規作成や自動販売機のトップボードデザインの統一など、認知度向上に向けた広報活動を積極的に行っている点を評価する。また、商工会議所や市内関係部署への周知を行うなど、設置拡大に向けた営業活動を継続して実施している点も評価できる。 ○自動販売機の設置拡大に向けては、府立学校関係者への事業説明や設置候補場所の検討など、地道な取り組みを積み重ねていることが新たな設置につながっており、事業推進のための努力が見られる。また、他課が所管する基金との共同設置を進めるなど、市内連携を通じた設置拡大に取り組んでいる点も有効な取り組みである。 ○大阪府文化振興基金については、寄附金の活用状況をまとめた実績報告書を作成しホームページに掲載するなど、寄附者に対する説明責任を果たす取り組みが行われている。また、金融機関でのパンフレット配架やイベントでの広報、寄附者へのノベルティ配布など、寄附促進に向けた広報活動を幅広く展開している点は評価できる。 ○一方で、寄附申込額については前年度と比較して減少しており、寄附型自動販売機の売上減少や一般寄附の減少など、外部環境の影響も見られる。現在の基金運営は自動販売機による収入への依存度が高い状況となっていることから、寄附財源の多様化について検討を進めることが望まれる。 ○今後は、自動販売機の設置拡大を引き続き進めるとともに、企業寄附や新たな寄附スキームの検討など、
--	--

		より持続可能な基金運営のあり方について検討することも重要である。また、基金の活用事例を分かりやすく発信することで、寄附が文化振興にどのように活かされているかを府民や企業に伝え、寄附への理解と共感を広げていく取り組みが求められる。 ○大阪府文化振興基金は、文化芸術活動を支える貴重な財源として重要な役割を担っている。寄附文化の醸成という本事業の目的を踏まえ、引き続き広報や営業活動を継続するとともに、制度の改善や財源確保のあり方について検討を進めることで、文化芸術活動を持続的に支える仕組みとして発展していくことを期待したい。
A	大阪文化再 発見事業	【概要】 府民に対する生涯学習講座等を実施する。（阪神奈ネット公開講座フェスタ、おおさかふみんネット） ・阪神奈ネット公開講座フェスタ：府及び大阪、兵庫の大学・研究機関（21 機関）でネットワークを組み、府県を超えた良質で高度な生涯学習機会の提供を行う。 ・おおさかふみんネット：府と府内市町村とのネットワークを構築し、生涯学習に関する情報交換及び広域的な学習機会の提供等の事業を行うことにより、生涯学習の総合的な推進を図る。 【実績】 ○阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット 「公開講座フェスタ 2025」 実施期間：令和 7 年 11 月 3 日（月）～20 日（木） 場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）（大阪市中央区） 講座数：20 講座（特別講演 1 講座含む） 定員：各講座 60 名、特別講演のみ 90 名（先着順） 参加者数：延べ 799 名 受講者満足度：96.2% ・例年とは異なる会場で実施したが、昨年度より参加者数が増加した。 ・参加者数は新型コロナ禍以前の水準に戻ってきているが、引き続き広報活動を徹底し、新規参加者の獲得及び継続参加者の増加を目指す。 ・参加者の年齢層が高齢化しているため、パンフレットや配布物の文字を大きくする等の配慮を行う。 ○おおさかふみんネット 「大阪府・大阪市共催講座 大阪の食文化から紐解く大阪の魅力！」（2 回連続講座） 実施期間：令和 7 年 12 月 12 日（金）、12 月 19 日（金）（2 回連続講座） 場所：大阪市立総合生涯学習センター（大阪市北区） 定員：各回 50 名（多数抽選） 参加者数：延べ 77 名 ○市町村との情報共有（随時） ・大阪市との共催講座は次年度も継続して実施予定。 ・今後も各市町村に積極的な情報提供を呼びかけ、その結果を踏まえながら、市町村にとってより事業をしやすい形となるよう、検討を進めていく。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は、大学・研究機関や市町村とのネットワークを活用し、府民に高度で良質な生涯学習の機会を提供するとともに、大阪の文化や歴史への理解を深めることを目的とした重要な取り組みである。今年度実施された「公開講座フェスタ 2025」では 20 講座が開催され、延べ 799 名が参加し、受講者満足度 96.2%と高い評価を得ている点は評価できる。特に定員を上回る申し込みがあった講座も見られ、本事業への関心の高さがうかがえる。 ○また、今年度は会場が従来とは異なる施設で実施されたことにより、新たな参加者層への周知につながったことや、参加大学が新たに加わり講座内容の幅が広がったことも、本事業の発展に寄与する取り組みとして評価できる。大学・研究機関の知見を活用した公開講座は、府民にとって質の高い学びの機会となるとともに、大阪の文化や歴史を再発見する契機となるものである。

		○一方で、受講者の年齢層が比較的高齢に偏る傾向が見られることから、今後は若年層の参加促進に向けた企画の工夫も期待される。例えば、現代の文化や社会的関心の高いテーマを取り入れるなど、多様な世代が参加しやすい講座内容を検討することも有効と考えられる。また、講座内容については、歴史や健康など幅広いテーマが扱われているが、本事業の趣旨である「文化の再発見」という視点が十分に共有されるよう、参加大学との連携をさらに深めていくことが望まれる。 ○広報面では、チラシや SNS の活用に加え、市町村を通じた公共施設への配架や交通機関のラックを活用した周知など、幅広い媒体を通じて情報発信が行われている点は評価できる。今後もこうした広報活動を継続しながら、より多様な府民に本事業の情報が届くよう工夫を重ねることが期待される。 ○「おおさかふみんネット」においては、府市共催講座を通じて大阪の食文化をテーマとした学びの機会が提供され、定員を上回る応募があるなど一定の関心を集めている。また、市町村との情報共有を継続して行っている点は、広域自治体としての役割を果たす取り組みとして評価できる。今後も市町村の状況やニーズを踏まえながら、より効果的な情報共有の方法や連携のあり方について検討を進めていくことが望まれる。 ○本事業は、大学や市町村との連携を通じて府民に学びの機会を提供し、大阪の文化や歴史への理解を深めるとともに、地域への愛着や誇りを育む役割を担っている。引き続き、多様な世代が参加できる学習機会の提供を通じて、大阪の文化を支え、次世代へ継承していく府民意識の醸成につながる取り組みとなることを期待したい。
B	大阪文化芸術創出事業 (大阪文化資源魅力向上事業)	【概要】 万博の開催を見据え、地域資源のさらなる魅力向上を図り、来阪者を府内各地に誘客するため、府内各地にある文化資源や地域の魅力を活用し、地元市町村等とも連携の上、文化財等を舞台とした公演等を中心とした文化芸術プログラムを行う。 【実績】 ○府内市町村等と連携し下記のとおり実施。※令和 8 年 2 月 25 日時点 ・プログラム数：(主催) 5 件 (共催) 1 件 ・公演数：(主催) 30 公演 (共催) 1 公演 ・参加者数 : 集計中 ※上記他 1 件を予定 ○主なプログラム 府内各地の文化資源（神社や文化財など）を舞台とした公演 「枚方宿 古今東西音絵巻～宿場町と鍵屋で音と歴史を楽しもう～」 「和泉きつね演劇祭～久保惣記念美術館で文楽とオペラを楽しもう～」 「顕証寺仲秋の調べ～久宝寺寺内町で能楽囃子と燈路を楽しもう～」 「KŌBA ART & SONIC」 「まちなか MUSIC & ART DAY」 上記の他、東大阪市のまち工場と連携しファクトリーアートの制作を行ったほか、「枚方宿 古今東西音絵巻～宿場町と鍵屋で音と歴史を楽しもう～」に先立ち絵本朗読のワークショップを実施した。 ○大阪・関西万博開催を契機に、地域の文化資源の魅力を向上させ、来阪者を府内各地へ誘客するための取り組みとして、市町村等と連携し、文化資源を舞台としたプログラムを実施した。 ○文化資源を舞台とした音楽や演芸、アートなどのプログラムを府内 5 か所（市立枚方宿鍵屋資料館・枚方市・顕証寺・八尾市、大阪大学会館・豊中市、久保惣記念美術館・和泉市、東大阪市内のまち工場・東大阪市）で開催。文化資源の魅力を広く発信できるよう、地元市町村や地元団体と連携し、文化の魅力を体験していただくイベントや、地域のイベントと連動したプログラムを実施することで、より多くの方々に文化芸術に触れ、楽しんで頂けるよう取り組んだ。 ○文化資源の魅力を広く発信できるよう、地元市町村や地元団体と連携し、文化の魅力を体験していただくイベントや、地域のイベントと連動したプログラムを実施することで、より多くの方々に文化芸術に触れ、楽しんで頂けるよう取り組んだ。また、昨年度の取り組みをブラッシュアップすることで、地域連携を強化し、内容の充実を図った。 ・市立枚方宿鍵屋資料館では古今東西へテーマを広げ、伝統芸能や音楽などの公演を行うと共に、地域と連携し、地域の民話をもとにした絵本製作と朗読会の実施や魅力発信動画の制作を実施。 ・東大阪市では、まち工場のアーティスト支援の下、作品制作を実施するとともに、民間主催のオープ

		ンファクトリーの取組みである「オープンファクトリーこーばへ行こう！」と連動し、作品展示や音楽プログラム等を展開。 ・八尾市では顕証寺本堂を使った本格的な能囃子公演等を開催。 ・豊中市では市との共催による音楽公演など2公演を実施。 ○企画にあたっては各自治体や大学、地域の文化芸術団体と連携し企画を進めるとともに、企画にあたってのノウハウの蓄積を行った。 ○令和8年度以降の取組みに向け、予算調整を行うとともに、市町村との意見交換を進めるなど、BEYOND EXPOを意識した調整を進めた。 ○今後は、専門人材との一層の連携を図るなど、これまでの取組みによって得たノウハウを活用するとともに、地域の文化芸術活動など様々な文化資源を活用し、多くの市町村との連携を図ることで、地域の文化資源の魅力向上・発信につなげる。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は、大阪・関西万博の開催を契機として、府内各地に存在する文化資源の魅力を高め、来阪者を大阪府内各地域へ誘客することを目的に、市町村や地域団体と連携して文化芸術プログラムを展開するものである。本年度は枚方市、和泉市、八尾市、豊中市、東大阪市など府内各地において、文化財や歴史的建築物、地域資源等を活用した公演や文化プログラムを実施し、地域の文化資源の魅力を活かした取組が展開されたことを評価する。 ○特に、枚方市における宿場町の歴史や地域の民話を活用したプログラムやワークショップ、東大阪市におけるまち工場と連携したファクトリーアートの制作、八尾市顕証寺本堂での能囃子公演など、各地域の特色を活かした多様な文化プログラムが実施されたことは、本事業の目的である地域の文化資源の活用という観点から意義のある取組である。また、地域のイベントや民間主体の取組と連携することで、文化芸術活動と地域活動を結びつけた展開が図られた点も評価できる。 ○さらに、本事業では専門人材を活用することで、地域の文化資源の特性や地域性を踏まえた企画立案や出演者選定、プログラム構成が行われ、文化芸術の質を確保しながら地域と連携した事業運営が実現されている点は重要である。加えて、事業を通じて地域の関係者や自治体とのネットワークが形成され、文化資源の活用に関するノウハウの蓄積が進んでいることも成果として評価できる。 ○一方で、本事業の重要な目的の一つである来阪者の地域への誘客については、どのような来場者が参加しているのか、地域外からの来訪者がどの程度含まれているのかといった点を把握することが、今後の事業展開において重要になると考えられる。来場者アンケート等を通じて来場者の属性や来訪動機を分析し、既存の地域イベントとの差別化や誘客効果の検証を進めていくことが望まれる。 ○また、本事業は3か年の継続事業として実施されているが、事業終了後においても各地域が主体的に文化資源を活用した文化事業を展開できるよう、地域の担い手育成や受入体制の整備を進めていくことが重要である。本年度の取組を通じて、顕証寺での公演などを契機に地域側が今後の自主的な事業実施に意欲を示す動きも見られており、このような成果を今後の地域文化活動の発展につなげていくことが期待される。 ○本事業は、文化芸術による地域活性化だけでなく、専門人材の活用やアートマネジメントのノウハウ蓄積、人材育成の観点からも重要な意味を持つ取組である。今後は、本事業で培われた人的ネットワークや企画運営の経験を活かしながら、地域の文化資源を活用した持続的な文化芸術活動の展開につなげていくことを期待したい。
B	大阪文化芸術創出事業 (文化芸術活性化事業)	【概要】 多種多様な文化芸術プログラムを展開する大規模な文化芸術祭典として「大阪国際文化芸術プロジェクト」を実施することにより、大阪の文化芸術のさらなる活性化を図る。 【実績】 ○大阪・関西万博を契機に、大阪の文化芸術の魅力発信を強化する「大阪国際文化芸術プロジェクト」として以下のプログラムを実施。 ○プログラム数：22件（共催イベントを含む） ・主なプログラム

「上方伝統芸能公演(能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎)」

万博会場内 EXPO ホールにおいて、能・文楽・歌舞伎といった上方伝統芸能が一堂に会する特別公演

「大阪城西の丸新能 2025」

全国的に著名な能楽師や狂言師を招聘し、大阪城西の丸庭園で開催する大規模な新能

「大仙大茶会」

大仙公園での 1,000 人規模の野点とステージイベントを楽しむ野外プログラム

「OSAKA INTERNATIONAL ART 2025」

各国大使館・領事館推薦や大阪にゆかりのあるギャラリー・アーティストの作品等を販売・展示するイベント

「OSAKA DANCERS EXPO 2025～TURN UP OSAKA」

音楽とダンスが融合する唯一無二のスペシャルダンスライブ

「第六回 大阪落語祭」

次代を担う上方落語家を中心に、東西の金看板も加わり豪華に開催する公演

「OSAKA MUSIC & CULTURE WEEKEND」

万博記念公園全体を活用した音楽とアートの野外プログラム

「OSAKA ART MARKET 2025」

気軽にアートに親しみ、アートを楽しむ展示・販売会

「壽 初春歌舞伎特別公演」

上方歌舞伎俳優と江戸歌舞伎俳優が共演する歌舞伎公演

「名曲コンサート in 大阪～時を超えたポップスの名曲を」

世代を超えて歌い続けられる名曲をお届けするオムニバスコンサート

「春の謡会 2026」

大槻能楽堂で能楽とアコースティックライブを同時に楽しめるプログラム

など

【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】

○本事業は、大阪・関西万博を契機として、国内外からの来阪者に対し、大阪が有する多彩な文化芸術の魅力を集中的かつ大規模に発信する取組であり、大阪の都市魅力向上と文化芸術活動の活性化の両面において重要な役割を担っている。本年度は、上方伝統芸能、音楽、アート、ダンス、演芸等の幅広い分野にわたる多数のプログラムを展開し、万博会場内外の双方で大阪独自の文化芸術を紹介する機会を創出した点を評価する。

○特に、万博会場内での上方伝統芸能公演をはじめ、インバウンドを意識したノンバーバルな演出や多言語対応、旅行商品の造成、SNS やホームページを活用した情報発信など、来阪者を意識した取組が積極的に進められたことは、本事業の目的に即した成果である。また、継続して実施されてきたプログラムについては、過去の実績を踏まえて内容の磨き上げが図られており、事業全体として着実なブラッシュアップが進んでいる点も評価できる。

○本事業の目的である「大阪の文化芸術活動のさらなる活性化」を実現するためには、大阪の文化芸術関係者がより多く本事業に関わりその活動を府民や来阪者に届ける機会となることが望ましい。一部のプログラムで複数年にわたって同じアーティストや企画者が採用されていたが、複数年にわたる事業を行う場合は重複を避けて、なるべく多くの文化芸術関係者に活動の機会がもたらされるよう配慮されたい。

○加えて、本事業を通じて、出演者だけでなく舞台技術や制作、運営等を担う多様な人材が関わる機会が生まれていることは意義深い。大規模な文化芸術事業は、表現者のみならず、それを支えるアートマネジメントや技術スタッフの育成にもつながるものであり、その意味でも本事業は大阪の文化芸術基盤を支える人材の裾野を広げる可能性を有している。

○一方で、事業規模が大きく、多分野にわたるプログラムが展開される中で、個々のイベントの集客や話題性が先行し、公金を投じる公共文化事業としての意義や、大阪独自の文化芸術をどう深く伝えるかという視点が相対的に見えにくくなる懸念もある。今後は、単に大規模な集客イベントを連続的に実施するだけでなく、大阪の文化や芸術の背景、歴史、思想、地域性を掘り下げるようなプログラムも織り交

		ぜること、事業全体の厚みを高めていくことが望まれる。 ○また、プログラムによっては、大阪の文化芸術土壌を支えてきた地域の人材や現場との結びつきが十分に可視化されていないものも見受けられる。全国的・国際的な訴求力を持つ企画は重要である一方で、大阪で長く活動が続けてきたアーティスト、制作者、研究者、地域の文化団体などをどのように位置づけ、本事業の中で中核的に活かしていくかについて、さらに検討が必要である。大阪独自の文化芸術を発信する事業である以上、大阪の現場を支える人材やネットワークが見える構造を意識していくことが求められる。 ○さらに、アートマネジメント人材の育成という観点についても、今後より明確に位置づけていく必要がある。本事業では多数の人材が運営に関わっているものの、短期的な現場対応にとどまらず、将来的に大阪の文化芸術を支える専門人材として育てていくような仕組みが十分とは言えない。大規模公共事業だからこそ、制作進行、プロデュース、広報、渉外、技術調整等の実践の場を人材育成の機会として戦略的に活用することが期待される。 ○本事業は、大阪の文化芸術の厚みと多様性を国内外に示す大規模プロジェクトとして大きな可能性を有している。今後は、万博を契機として得られた知見やネットワークを一過性の成果に終わらせるのではなく、大阪独自の文化芸術の継続的な発信、地域との接続、人材育成、そして公共文化事業としての深みを備えた新たな展開へとつなげていくことを期待したい。
B	SAKISHIMA LIGHTING ART 事業	【概要】 「大阪・関西万博」の会場からも目視可能な咲洲庁舎の外壁を活用し、大規模なデジタルアート作品を展開する。 【実績】 ・万博の会期（R7.4.13～10.13）に合わせ、日没以降～23 時において、ライトアップを実施。 ・投影する作品は、4 月から5 月はテーマ「春」、6 月から7 月はテーマ「夏」、8 月から9 月は「秋」及び「公募作品」、10 月は全作品を投影するなど、順次、投影する作品を切り替えた。 ・万博開催に合わせた令和7 年度終了事業であるため、現在は投影を終了しており、機材等は撤去済み。 <作品公募・ワークショップ> ○29 歳以下の学生やクリエイター等を対象とした作品公募を実施（3 月 21 日～6 月 1 日（作品提出締切 6 月 15 日）） ○30 チーム 61 名がエントリー→19 作品の提出→技術的完成度や創造性などの観点から 10 作品を選定・投影 ○エントリーした応募者を対象に、応募者の技術向上に資するレーザーマッピングに関する実践ワークショップを開催 ○「いのちの彩り、未来の輝き」といった万博に関連するテーマのデジタルアートや総合演出とすることで、万博の機運醸成を図った。 ○映像やクリエイティブアートを志す若手クリエイターに対し、学びと創作、発表が一体となった人材育成・発表機会を提供するため、投影する作品の一部について公募を行い、応募作品の中から選定した 10 作品を投影するなど、選考作品を公開し、個々のクリエイターに発表の機会を提供した。 ○作品の公募に先立ち、レーザーマッピングに関するワークショップを実施にしたことで、単なるコンペティションにとどまらず、初心者もチャレンジできる機会につなげた。 ○上記のように、本事業の実施に合わせ、創作や発表等の活躍の機会を提供することにより、若手クリエイターの人材育成、大阪におけるアート活動の振興を図った。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○オオサカアートビレッジ事業（SAKISHIMA LIGHTING ART）は、大阪・関西万博の開催にあわせ、咲洲庁舎の外壁という都市スケールの空間を活用してデジタルアートを展開することにより、都市の新たな景観創出と文化発信を図る取組である。本年度は万博会期に合わせてライトアップを実施し、春・夏・秋のテーマに沿った作品の投影を行うなど、万博の機運醸成と都市魅力の発信に寄与した点を評価する。

		○また、本事業では 29 歳以下の学生や若手クリエイターを対象に作品公募を実施し、30 チーム 61 名のエントリーの中から 10 作品を選定・投影するなど、若手アーティストに発表の機会を提供している。 さらに、応募者を対象としたレーザーマッピングの実践的なワークショップを開催し、初心者も含めて創作技術を学ぶ機会を提供したことは、人材育成の観点からも意義のある取組である。 ○特に、作品公募とワークショップを組み合わせることで、単なるコンペティションにとどまらず、学びと創作、発表の機会を一体的に提供する仕組みとなっており、若手クリエイターが先端的な表現技術に触れる機会を創出した点は評価できる。また、これらの取組を通じて、関西圏でデジタルアート制作に取り組む若手人材の存在が可視化されたことは、本事業の重要な成果であると考えられる。 ○一方で、本事業は万博にあわせた期間限定事業として終了する予定であるが、本事業を通じて得られた人材ネットワークや技術的知見を今後どのように活かしていくかが重要な課題となる。今回の取組により把握された若手クリエイターや作品情報については、今後の文化事業や人材育成施策において共有・活用できるよう整理していくことが望まれる。 ○また、作品やプロジェクトの記録をデジタルアーカイブとして残すことにより、本事業の成果を将来的にも参照可能な形で蓄積していくことも重要である。公的文化事業としての成果を広く共有することで、デジタルアート分野における大阪の取組を国内外へ発信する契機にもなると考えられる。 ○本事業は、万博という国際的なイベントを契機として、都市空間を活用した新しい文化表現の可能性を示すとともに、若手クリエイターの育成やネットワーク形成にも寄与した取組である。今後は、本事業で得られた成果を踏まえ、デジタルアートや映像表現など新たな文化分野における人材育成や発表機会の創出について、他事業とも連携しながら継続的な取組を検討していくことを期待したい。
B	大阪府所蔵美術作品活用活性化事業	【概要】 所蔵美術作品を府内各地に展示し、府民に身近な場所での鑑賞機会の提供を図るとともに、観光資源としての活用を図ることで、大阪府を訪れる観光客の増加につなげていく。 【実績】 ○7 箇所、計 13 作品の新たな作品展示を実施（令和 8 年 1 月時点） ○咲洲庁舎・府立国際会議場・大阪モノレール駅舎で、作品解説付きキャプションを設置する等、リニューアルを実施。 ○万博会場内でコレクション展を開催するとともに、会場内外の展示場所を巡るデジタルスタンプラリーを開催。 ○ATC に新たに収蔵庫を設置し、大型立体作品等を保管。外側の展示スペースは「ATC アートウィンドウ」として公開。 ○活用・保全を継続的に進めるための実施体制として、新たに学芸員（非常勤 2 名）を雇用。作品の活用・保全に係る中長期計画を策定する予定。 ○新たな作品展示に取組み、多くの方に作品を鑑賞いただくことができた。 ○咲洲庁舎地下駐車場に保管していた作品を、暫定的な保管場所から新たに設置した収蔵庫で移転することができた。 ○コレクション展の開催にあたり、キュレーターとの直接のコミュニケーションがない等、事業実施スキームについて、大きな反省点がある。 ○来年度は、学芸員を引き続き雇用する等、コレクションの活用・保全に必要な体制を確保しつつ、下記等に取り組む。 ・新たに設置した収蔵庫での保管・展示 ・展示場所の開拓や既存展示場所のリニューアル ・万博のレガシーを活かしたコレクション展の開催 ・大阪バーチャル美術館の運営 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は、大阪府所蔵美術作品を府内各地で活用し、府民が身近な場所で作品に触れる機会を創出するとともに、観光資源としての活用を通じて大阪の都市魅力向上を図る重要な取組である。今年度は、新たな展示場所の開拓、既存展示場所のリニューアル、万博会場におけるコレクション展の開催、収蔵庫

		整備、学芸員配置など、多面的に事業が進められており、所蔵作品の活用と保全の両面から体制整備が進展している点を評価する。 ○新たな作品展示については、年度途中の時点で複数箇所における展示が進められており、府民や来訪者に対して所蔵作品に触れる機会を広げている点は意義が大きい。また、咲洲庁舎、府立国際会議場、大阪モノレール駅舎における作品解説付きキャプションの整備など、展示環境の充実を図っていることは、単なる展示にとどまらず、作品理解を促進する観点からも評価できる。 ○また、万博会場でのコレクション展やデジタルスタンプラリーの実施、新たな収蔵庫の設置、ATC アートウィンドウとしての公開など、従来の保管中心の枠組みから一歩進み、作品を「見せながら守る」方向へ展開していることは、本事業の新たな可能性を示すものである。さらに、活用・保全を継続的に進めるために非常勤学芸員を新たに配置したことは、専門性を担保する基盤整備として評価できる。 ○一方で、新たな展示作品数については目標に対してなお途上にあり、年度内の達成に向けて引き続き調整を進める必要がある。また、万博会場でのコレクション展の実施にあたっては、キュレーションや実施スキームに関する反省点も示されており、今後は事業者と学芸員との連携をより密にし、学芸的観点 が事業全体に十分反映される体制を強化することが望まれる。 ○さらに、本事業は展示や収蔵の充実に加えて、所蔵作品を今後どのような方針で保全・活用していくのかという中長期的な議論が不可欠である。収蔵庫の維持管理コストや作品活用の持続可能性を踏まえ、何をどのように守り、どのように活かしていくのかについて、判断の拠り所となる方針を明確にしてい く必要がある。そのためにも、現在進められている活用・保全に係る中長期計画や最終報告の内容を踏まえ、関係機関と連携しながら今後の方向性を丁寧に整理していくことが求められる。 ○本事業は、所蔵美術作品を単に保管するのではなく、府民共有の文化資産として再活用し、大阪の文化的価値と都市魅力を高める取組として重要である。今後は、展示機会の拡大と保全体制の強化を両立させつつ、万博のレガシーも活かしながら、所蔵作品の活用方針をより明確にし、大阪ならではの美術資源活用のモデルとして発展していくことを期待したい。
B	大阪府 20 世紀美術コレクション 魅力発信事業	【概要】 令和 5 年度に開設した「大阪バーチャル美術館」において、大阪・関西万博に関連するテーマ等で展示数を拡大させることにより、現代美術や大阪の魅力を発信し、万博の機運醸成と大阪への誘客を図る。 【実績】 ○バーチャル展示の拡充 万博で開催した展覧会の 3D アーカイブを含め、新たに展示室 5 室を追加し、約 100 作品を展示（3 月末公開予定） ○デジタルアーカイブの機能強化 作品画像(約 100 点)を追加するとともに、引用元のデータベースに出展履歴を追加（3 月末 実装予定） ○情報発信 万博での展覧会やデジタルスタンプラリーの情報等、作品のリアル展示に関する情報を発信。 ○R8 年 1 月末時点での実績値 ホームページ訪問数：101,230 件 バーチャル美術館訪問数：4,953 件※ （※については、R7 年 2 月の利用システム変更により、前年度とカウント方法が変更） ○作品画像の活用（雑誌表紙への掲載）のきっかけになる等、コレクションの認知度向上に資することができた。 ○SNS において、リアル展示に関する情報の発信やバーチャル展示している作品の紹介等を行うことで、ホームページ訪問数を倍増させることができた。（R7 年度：44,731 に対して、1 月時点で 226%）。 ○本事業は R7 年度で終了となるが、R8 年度は、大阪府所蔵美術作品活用活性化事業において、運営に必要な経費を確保する予定。 ○今後も、大阪バーチャル美術館の web サイトや SNS により、コレクションのオンライン上での鑑賞や、リアルでの作品鑑賞を促すための情報発信に取り組んでいく。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は、「大阪バーチャル美術館（enoco+）」を活用し、大阪府 20 世紀美術コレクションの魅力をオ

		ンライン上で発信するとともに、大阪・関西万博における展覧会や府内各地でのリアル展示と連動させることで、大阪の文化資源の可視化と国内外への発信を図る取組である。今年度は、バーチャル展示の拡充、デジタルアーカイブの機能強化、情報発信の強化などを通じて、事業が着実に進展している点を評価する。 ○バーチャル展示については、万博で開催した展覧会を 3D アーカイブとして再現するとともに、新たな展示室を追加し、所蔵作品約 100 点を展示するなど、コレクションの魅力をコンセプトに沿って体験できる構成となっている。また、プラットフォームの操作性向上やトップページの改修など、利用者の利便性向上に向けた改善が進められており、オンライン上での鑑賞体験の充実につながっている点を評価する。 ○デジタルアーカイブについても、作品画像の追加や出展履歴の登録、検索機能の改修などにより、作品情報の蓄積とアクセス性の向上が図られている。これにより、一般利用者のみならず学芸員や研究者にとっても活用しやすい環境が整いつつあり、コレクションの研究・活用基盤としての役割が強化されている点は重要である。 ○また、SNS や Web サイトを通じた情報発信の強化により、ホームページ訪問数が大きく増加するなど、オンライン上での認知度向上が確認されている。さらに、バーチャル展示をきっかけとして所蔵作品の貸出や雑誌掲載につながる事例も見られることから、本事業がコレクションの認知度向上や活用促進に一定の効果を発揮していることがうかがえる。 ○一方で、本事業は令和 7 年度で終了し、今後は「大阪府所蔵美術作品活用活性化事業」において運営が継続される予定であるため、これまで構築してきたデジタル資産をどのように活用・発展させていくかが重要な課題となる。今後は、オンライン鑑賞とリアル展示を相互に補完する仕組みとして位置付けを整理し、継続的な運用体制の確保やコンテンツ更新の方針を明確にしていくことが望まれる。 ○また、バーチャル展示やデジタルアーカイブは、美術鑑賞の機会拡大だけでなく、教育分野での活用にも大きな可能性を有している。大阪の現代美術の歴史を学ぶ教材やキュレーションの学習素材として活用するなど、教育機関との連携を強化することで、より幅広い世代への普及につなげていくことが期待される。 ○さらに、デジタルアーカイブは国内外からのアクセスが想定されるため、英語表記の充実など多言語対応を含め、国際的な利用を見据えた環境整備を進めることも重要である。今後は万博のレガシーとして、デジタル技術を活用した美術コレクションの発信モデルを発展させ、大阪の文化的魅力を国内外に広く伝えていくことを期待したい。
B	府庁本館活用事業	【概要】 府庁本館等を文化芸術活動の場として提供し、府内で舞台芸術活動を行う団体の自主的な取組を促進する。 【実績】 ○府庁本館活用事業：のべ 7 団体からの申し込みがあり、計 7 回実施。 第 1 回 特定非営利活動法人 関西芸術振興会・関西歌劇団（推薦） 8 月 19 日（火）12:15～13:00 関西歌劇団 Presents ランチタイムコンサート ～オペラ《イル・カンピエッロ》によせて～（府庁本館 5 階 正庁の間） 観客数：90 名 第 2 回 素人寄席 天満天神の会（公募） 9 月 2 日（火）12:15～13:00 大阪府庁天満天神寄席 （府庁本館 5 階 正庁の間） 観客数：61 人 第 3 回 ローズ・ローザ（公募） 10 月 24 日（金）12:15～13:00 フルートアンサンブルコンサート （府庁本館 1 階 正面玄関ホール） 観客数：159 人 第 4 回 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎生徒（推薦） 12 月 15 日（月）12:15～13:00 クリスマスの調べ～クラシックの名曲から讃美歌まで～ （府庁本館 5 階 正庁の間） 観客数：166 人 第 5 回 Ripple（公募）

12月24日（水）12:15～13:00 Otonari Concert ～府庁に響く昼の調べ～

（府庁本館1階 正面玄関ホール） 観客数：139人

第6回 アイゲンアート・ミュージック（公募）

1月7日（水）12:20～13:00 みんなでたのしむオペラコンサート”シンデレラ”へようこそ！

（府庁本館5階 正庁の間） 観客数：118人

第7回 公益社団法人浪曲親友協会（推薦）（推薦）

2月10日（火）12:15～13:00 次代につなぐ浪曲物語

（府庁本館5階 正庁の間） 観客数：71人

○フェスパ次世代シアター事業

1団体からの申し込みがあったが、実施に向けた調整の結果、実施せず。

- ・イベントの広報については、実施団体自らの広報に加え、昨年度に引き続き、報道提供、もずやん X、Facebook での配信を行った。
- ・より多くの団体に応募してもらえよう、推薦枠を設けた。
- ・昨年度に引き続き、公演の動画を撮影し、ダイジェスト版として文化課の YouTube で配信を行った。
- ・民間のイベントサイトに協力いただき、第4回以降、本事業内容を掲載していただいた。
- ・本事業の実施団体募集のチラシを作成。

【アーツカウンシルからの主な評価・提案】

○本事業は、歴史的・文化的価値の高い府庁本館等を文化芸術活動の場として提供することにより、府内で活動する文化芸術団体の主体的な取組を支援し、府民に文化芸術を身近に鑑賞する機会を提供するものである。本年度は府庁本館活用事業において7回の公演等が実施され、前年度を大きく上回る実施件数となったことは高く評価できる。特に、正庁の間の活用再開により、歴史的空間そのものを文化芸術の舞台として開くことができた意義は大きく、府民のみならず行政職員にとっても文化芸術に触れる機会の拡充につながっている。

○また、本年度はオペラ、落語、フルートアンサンブル、学校生徒による演奏、浪曲など、実施ジャンルが多様化しており、事業の魅力が広がっている点も評価できる。推薦枠の新設により、従来よりも参加しやすい仕組みを整えたことが、実施件数の増加や新たなジャンルの参画につながったと考えられる。

○広報面においても、報道提供、もずやん X や Facebook での発信、動画のダイジェスト配信、民間のイベント情報媒体への掲載など、多様な媒体を活用した周知が進められている点は評価できる。こうした丁寧な広報の積み重ねが集客や認知度向上に結びついており、事業の拡充に一定の効果をもたらしていると考えられる。

○一方で、フェスパ次世代シアター事業については、申込みはあったものの実施には至らず、事業の趣旨や会場条件が参加団体のニーズと必ずしも十分に合致していない可能性がうかがえる。今後は、対象団体の属性や実施条件を改めて整理し、必要に応じて事業の位置づけや実施方法を見直すことが望まれる。

○また、府庁本館活用事業については実施件数が増加した一方で、応募件数自体はなお多いとはいえ、潜在的な実施希望団体に対して事業の内容や申請手順、実施イメージが十分に伝わっていない可能性もある。引き続き、ホームページや募集チラシの改善、過去事例の見せ方の工夫、募集時期や手続きの分かりやすい案内などにより、初めて応募する団体にも利用しやすい仕組みづくりを進めることが求められる。

○さらに、本事業は単なる会場提供にとどまらず、歴史的建築物を文化芸術の実践の場として活かすことにより、文化財的価値と現在の創造活動を接続する役割も担っている。今後は、府庁本館という場の特性をより積極的に打ち出しながら、多様な実演芸術の受け皿としての魅力を高めていくことが期待される。

○本事業は、文化芸術団体の発表機会の拡充と府民の鑑賞機会の提供を同時に実現する、意義の大きい取組である。今後も、府庁本館の文化活用をさらに推進するとともに、フェスパ次世代シアター事業のあり方も含めて事業全体を整理し、府民に開かれた文化芸術の場として発展していくことを期待したい。

B	大阪文化賞・大阪文化祭賞	【概要】 大阪の文化芸術に多大な貢献のあった方等を顕彰する。(大阪文化賞、大阪文化祭賞) ・大阪文化賞：直近の1年間において、文化芸術の振興に著しい功績のあった方もしくは団体を顕彰する。 ・大阪文化祭賞：大阪の文化振興の機運を醸成することを目的として、大阪府内で行われた公演の中から優れた成果をあげたものに対して賞を贈呈する。 【実績】 ○大阪文化賞 ・R7.9.1 推薦受付(～9.30)／R7.12.16 選考委員会／R8.2.10 報道提供／R8.2.14 贈呈式 ・大阪文化賞については、推薦件数を増やすようチラシの配架、府イベントでの周知、芸術文化団体へのメール案内等の広報に加え、府政だよりへの記事掲載を行った結果、府民から20件(候補者数18件)の推薦があった。 ○大阪文化祭賞 ・R7.7～R7.8 上期審査委員会／R8.1 下期審査委員会／R8.2.2 運営委員会／R8.2.24 報道提供／R8.3.3 贈呈式 ・来年度は引き続き本賞の知名度向上に努めるほか、受賞者にもSNSなどへの掲載を働きかけ、より周知の機会を増やす。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○大阪文化賞および大阪文化祭賞は、大阪において優れた文化芸術活動を顕彰することにより、芸術文化の振興と担い手の育成を図る歴史ある表彰制度であり、大阪の文化芸術の魅力を広く社会に示す重要な取組である。本年度は大阪文化賞について一般推薦20件および推薦委員からの推薦25件の中から受賞者1名を決定し、贈呈式を実施した。また大阪文化祭賞については、各部門の専門家による審査を経て大阪文化祭賞3件、大阪文化祭奨励賞6件を決定するなど、例年どおり文化芸術分野における優れた活動を顕彰する機会が設けられた。 ○大阪文化賞については、一般からの推薦件数の増加をめざし、大阪府と連携した広報活動やSNS等を活用した情報発信を行った結果、市民が大阪の文化芸術活動に関心を向ける契機をつくることにつながった。文化芸術分野の顕彰制度は、受賞者の功績を広く社会に紹介するとともに、芸術活動に対する社会的評価を高める役割を持つことから、こうした広報活動の継続は重要である。 ○本事業は、長い歴史を持つ顕彰制度として大阪の文化芸術の発展に寄与してきた。今後は、従来の文化分野に加えて新しい表現や分野横断的な活動にも目を向けながら、時代の変化に対応した顕彰制度として発展させることで、大阪の文化芸術の多様性と創造性を社会に発信していくことが期待される。
B	山片蟠桃賞	【概要】 近世大阪の生んだ世界的町人学者である山片蟠桃の名にちなみ、日本文化の国際性を高めるためにふさわしい優秀な著作とその著者を顕彰する。(3年に1回) 【実績】 ○第28回受賞者を大阪に招き、贈呈式及び受賞記念講演会を開催した。 ○贈呈式 日時：令和7年9月17日(水)11時10分から11時25分まで 会場：大阪府庁本館3階特別会議室大(大阪市中央区) ○受賞記念講演会 日時：令和7年9月17日(水)14時00分から15時30分まで 会場：大阪国際交流センター 大阪カンファレンスセンター2階 小ホール(大阪市天王寺区) 講演会内容：ポール・S・アトキンス氏(ワシントン大学シアトル校アジア言語文学科 教授) 「小倉色紙の筆者は本当に藤原定家？ ひらがなの使い方から探る真実」

		参加者：84 名 ○日本文化の国際通用性を高めた優秀な著作とその著者を顕彰するとともに、一般府民に向けた受賞記念講演会を開催し、「山片蟠桃」の知名度の向上に寄与した。第 29 回の候補者の募集に向けて調整や準備を進めるとともに、今回の課題を踏まえ、改善方法を検討していく。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○「山片蟠桃賞」は、近世大阪が生んだ世界的町人学者・山片蟠桃の名を冠し、日本文化の国際的価値を高めた優れた研究成果や著作を顕彰するものであり、大阪のみならず日本を代表する国際的な文化賞の一つとして重要な意義を有している。国内外の研究者や文化人を対象とする数少ない文化顕彰事業であり、大阪が文化・学術の都市であることを国際的に発信する役割を担っている点を高く評価する。 ○本年度は、第 28 回受賞者であるワシントン大学シアトル校のポール・S・アトキンス教授を大阪に招き、贈呈式および受賞記念講演会を開催した。講演会では、日本の古典文学研究に関する専門的かつ興味深い内容が紹介され、一般市民を含む参加者にとって日本文化の理解を深める貴重な機会となった。また、受賞者を大阪に招き、講演会や交流の場を設けたことは、本賞の国際性を体現する取組として評価できる。 ○さらに、受賞記念講演会を一般市民にも開かれた形で実施している点は、本事業の特色の一つである。研究者の功績を顕彰するだけでなく、その研究内容を広く社会に紹介することにより、文化・学術への関心を高める役割を果たしている。大学や文化施設など関係機関と連携しながら広報を行い、講演会の開催につなげている点も評価できる。 ○一方で、本賞の名称の由来となっている山片蟠桃については、一般的な認知度が必ずしも高いとは言えない状況にある。近世大阪の思想史・文化史において重要な人物であることを踏まえ、今後は山片蟠桃の生涯や思想、著作などに関する情報発信をさらに強化し、本賞の理念や歴史的背景を広く共有していくことが望まれる。 ○また、講演会の参加者数の拡大や事業の認知度向上に向けては、大学や研究機関との連携に加え、広報媒体の工夫や SNS の活用などを通じて、研究者や学生、文化に関心のある層へ効果的に情報を届けていくことが重要である。これにより、本賞の社会的認知度を高めるとともに、文化・学術分野における大阪の存在感を一層高めていくことが期待される。 ○「山片蟠桃賞」は、大阪が長年にわたり培ってきた文化的・学術的伝統を象徴する事業であり、その継続は大阪の都市ブランドの向上にも寄与する。今後も本賞の国際性と歴史的価値を活かしながら、文化・学術交流の促進や日本文化の発信につながる取組として発展していくことを期待したい。
B	大阪府アーティスト情報発信事業（大阪府アーティストバンク）	【概要】 アーティストの情報を広く府民に紹介し、地域や学校における府民の自主的な活動のサポート（申し出があったアーティストの情報を随時登録） 【実績】 ○新規登録件数：個人 15 件、団体 5 件 ○変更登録件数：個人 3 件、団体 4 件 ○全登録者数：個人 111 件、団体 91 件 ○各アーティストの個票を見やすくするため、例年と同様に登録数の多い分野は個票を分けて掲載した。 ○大阪府で実施する施策の中で、補助金情報など、登録者が利用可能な情報提供を行った。 ○アーティストバンクの周知をするため、N P O 関連情報お知らせメール（7 月号）に掲載した。 ○引き続き、アーティストバンク利用者にとって活用しやすいホームページレイアウトをめざす。また、府の事業等の周知も行っていく。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○大阪府アーティスト情報発信事業（アーティストバンク）は、府内で活動するアーティストの情報を集約し、府民や地域団体、教育機関等が文化芸術活動を企画する際に活用できる基盤として機能するものであり、文化芸術活動の担い手と地域社会をつなぐ重要な役割を担っている。本年度も新規登録や登録情報の更新が行われ、府内で活動するアーティストの情報発信基盤として継続的に運営されている点を

		評価する。 ○本事業は、予算を伴わない中で職員による運営が行われているが、登録者への連絡や掲載情報の更新、ホームページのメンテナンスなどを丁寧に実施し、登録アーティストの活動情報を整理している点は評価できる。また、登録情報の整理や掲載方法の工夫により、利用者にとって分かりやすい情報提供に努めている点も重要である。 ○新規登録については音楽や和太鼓などの分野からの登録が見られ、一定数の新規登録者を確保していることから、本事業が府内アーティストの情報発信の場として継続的に活用されていることがうかがえる。さらに、登録アーティストが実際に出演依頼につながるケースも見られることから、本データベースが文化芸術活動のマッチング機能として一定の役割を果たしていると考えられる。 ○一方で、本事業の認知度はまだ十分に高いとは言えず、アーティスト側・利用者側の双方に対する周知が課題となっている。今後は、依頼につながった事例や活用方法をホームページ等で紹介するなど、具体的な利用イメージを示すことで、利用促進につなげていくことが望まれる。また、府内自治体を実施している類似のアーティスト紹介事業との連携についても検討を進めることで、より効果的な情報発信が可能になると考えられる。 ○さらに、登録アーティストへのアンケートなどを通じて、どのような情報発信や支援機能が求められているのかを把握し、今後の事業改善につなげていくことも重要である。登録時や情報更新時に簡易なアンケートを実施するなど、継続的に利用者ニーズを把握する仕組みづくりが期待される。 ○また、本データベースは文化芸術活動の紹介にとどまらず、行政や自治体が文化芸術関係者と連絡を取るための基盤として活用される可能性もある。文化芸術分野におけるネットワーク形成の基盤としての役割も視野に入れながら、本事業の意義を広く発信していくことが望まれる。 ○本事業は、限られた予算と体制の中で府内アーティストの活動を支える基礎的な情報基盤として機能しており、今後も登録情報の充実や周知の強化を図ることで、文化芸術活動の担い手と地域社会をつなぐ仕組みとして発展していくことを期待したい。
C	上方演芸資料館(ワッハ上方)管理運営事業	【概要】 全国で唯一の演芸資料館として、資料等の収集・保存・展示等の取組を通して、上方演芸の保存及び振興を図るとともに、府民に上方演芸に親しむ場を提供する。 【実績】 ○収蔵資料を活用した展示の実施（年3回以上） - 企画展示「Welcome to“上方演芸”のまち OSAKA～ポスターから見る上方演芸～」(R7.3/20～9/23) - 企画展示「上方演芸で振り返る昭和レトロ展～演芸人たちが歩いた「昭和」～」(R7.10/4～R8.3/8) 「上方演芸の殿堂入り」演芸人展示 (R7.11/1～R8.10/31) - 館外展示「東大阪と上方演芸」展 in 鴻池新田会所(R8.2/22～3/7) ※落語ワークショップについても併せて実施 ○ワークショップ等の上方演芸の魅力を伝えるイベントや講演会の開催（月3回以上） - 毎月原則第1・第3土曜日に体験型講習会（ワークショップ）を開催（19回 R8.2月末時点） - 上方演芸の専門家による講演会を2回開催 - 毎月原則第2・第4土曜日にアマチュア演芸団体と共催事業を開催（23回 R8.2月末時点） ○SNS等を活用した情報発信（年300回以上） - 原則として、毎日SNSで情報発信282回（R8.2月末時点） ○大学と連携し、新たな層の来館者増につなげるイベントの実施（年1回以上） - 大学落語研究会等と連携して寄席を開催（10/19 大阪芸術大学、11/9 大阪公立大学、11/23 大阪大学、12/14 関西大学） - また、今年度から新たに、追手門学院大学、近畿大学とも連携し、寄席を開催（R8.3.1） ○パンフレット等の新規配架（10箇所以上） - ワッハ上方近隣の宿泊施設や観光ボランティア団体等、19箇所配架（R8.2月末時点） ○第28回「上方演芸の殿堂入り」表彰式の開催（7/1 シティプラザ大阪） 二代目 桂ざこば、横山たかし・ひろしを殿堂入り演芸人として表彰

- 上方演芸の魅力を伝えるため、年間を通じて資料の展示やイベントの開催、広報啓発等を実施した。
- 上半期の企画展示では、大正から平成にかけて、大阪にあった演芸場の公演ポスターやプログラム、かつて賑わいを見せた演芸場で活躍した演芸人に関する資料などを展示した。
- 下半期の企画展示では、昭和 100 年にちなみ、昭和を生きた演芸人の衣装や小道具、楽屋裏でその活動を支えた愛用品などを通して、「昭和レトロ」を感じていただきながら、演芸人たちの活躍を振り返る展示を行った。なお、チラシ作成にあたっては、アーツカウンシルのご意見を踏まえ、展示資料の写真等を盛り込む改善を行った。
- さらに、館外展示として、鴻池新田会所（東大阪市）において、同市出身の演芸人などの資料を展示し、併せて同所にて、落語のワークショップも開催した。（展示：2/22～3/7）
- 館内体験エリアでは、プロの演芸人による体験型ワークショップや、アマチュア団体による実演会を実施した。特に、夏・冬休み期間には、子どもや家族連れを対象にしたワークショップを開催するとともに、展示資料を活用したクイズラリーも開催し、子どもたちが上方演芸に触れる機会を提供するなど、幅広い年齢層の来館者が楽しめる工夫を行った。
- 大学との連携事業では、今年度は、6 大学（うち新規 2 大学）とコラボ寄席を実施し、若い世代がワッハを知り、活用する絶好の機会となっており、来館者からも好評を得ている。
- インターンシップ生を受け入れ、人材育成にも貢献するとともに資料館の役割について理解を深めていただくことができた。
- 来館者へのサービス向上として、クリアファイルや蛍光ペンなどのオリジナルグッズの制作・配布、展示資料（大阪弁 50 音パネル）に関する新たな解説ペーパーの作成配架、映像音声資料一覧の新規作成などに取り組んだ。また、より多くの方にワッハ上方の情報を届けるため、今年度から当館の公式 SNS をフォローした方にオリジナル缶バッジをプレゼントする企画を始め、昨年度末に比べてフォロワーが大幅（Instagram で約 2.7 倍）に増加した。
- 大阪府内の全ての中学校と高校に対して、校外学習や探求学習の訪問先として検討してもらえるよう案内を送付し、団体来館の促進につなげた。
- アンケートによる入館者の満足度（満足＋やや満足）は、11 月末分までで 87.7%となっている。

【アーツカウンシルからの主な評価・提案】

- 上方演芸資料館（ワッハ上方）は、全国で唯一の演芸資料館として、上方演芸に関する資料の収集・保存・展示を行い、その魅力を広く発信する重要な文化拠点である。今年度は企画展示や館外展示を含め複数の展示事業を実施するとともに、ワークショップや実演イベントなどを継続的に開催し、上方演芸の魅力を多角的に伝える取り組みが行われている点を評価する。また、来館者満足度が高い水準を維持していることも、本施設の取組が来館者の関心に応える内容となっていることを示している。
- 展示事業においては、収蔵資料を活用した企画展示を実施するとともに、館外展示やワークショップを組み合わせることで、上方演芸の歴史や魅力を多様な形で発信している点が評価できる。また、展示内容については、演芸人の活動や資料を関連づけながら紹介するなど、来館者が理解しやすい工夫が見られる。
- 大学との連携事業については、複数の大学と連携した寄席の開催やインターンシップの受入れなどを通じて、若い世代が上方演芸に触れる機会を創出している点を評価する。今年度は新たに連携大学が加わり、若年層の来館促進につながる取り組みとして成果を上げていると考えられる。
- 広報面では、SNS を活用した積極的な情報発信やフォロワー増加に向けた企画の実施、近隣宿泊施設や観光関係団体へのパンフレット配架など、多様な手法を組み合わせた取り組みが行われている点を評価する。こうした取り組みにより来館者数も増加しており、施設の認知度向上に一定の成果が見られる。
- また、体験型ワークショップやクイズラリーなど、子どもや家族連れを対象とした企画を実施することで、幅広い世代が上方演芸に触れる機会を提供している点も評価できる。学校への案内送付など教育機関との連携を通じた来館促進の取り組みは、今後の観客層の育成という観点からも意義がある。
- 一方で、来館者層については高齢者の割合が依然として高く、若年層や観光客など新たな来館者層の拡大が引き続き課題である。千日前という国内外の観光客が集まる立地を生かし、観光客が立ち寄りやすい導線づくりや多言語による情報発信など、観光との連携をさらに強化することが望まれる。
- 本施設は、大阪を代表する文化の一つである上方演芸を保存・継承するとともに、その魅力を国内外に

		発信する拠点として重要な役割を担っている。今後も資料館としての専門性を生かした展示や事業を継続するとともに、観光・教育・地域との連携を通じて、上方演芸の魅力をより多くの人々に伝えていくことを期待したい。
C	江之子島文化芸術創造センター（enoco）管理運営事業	【概要】 アーティスト等が交流・連携・協働する拠点としての機能を強化し、文化芸術の創造及び振興を図るとともに、府所蔵美術作品の管理・活用や次世代の担い手の育成にも取り組む。 【実績】 ○令和7年1月末現在での実績値： 来館者数（延べ）：166,430 人 文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ人数：1,218 件 enoco との創造的活動を協働した個人・団体等の数：693 件 所蔵作品活用点数：1,262 点／年 企画展：2 回 貸館利用率＜多目的ルーム 1～4（展示室）＞：48.2% ＜多目的ルーム 5～12（展示室以外）＞：63.0% ○指定管理関係等 ・センターの機能が発揮できるよう、指定管理者と定期的に打合せを行い、事業計画の推進に取り組み、企画展示やワークショップ等を開催した。 ・特に、企画展については、黒田ダイスケ氏とのコラボによる新たな層への訴求が期待できるもの、サイエンスアート作品の展示については、万博に関連している点・またその修復による再起動という点にフォーカスした府事業とも連携がとれたものを開催した。 ・デジタルサイネージの設置や動画の作成を行い、認知度向上に寄与した。 ・来年度は、認知度や貸館利用率の向上について、指定管理者と共に取り組む。 ○次期指定管理者の公募 ・次の公募に向け、利用料点検を実施した。また、指定管理に興味を持つ事業者と意見交換を行った。 来年度は、次期指定管理者の選定を行う。 ○他の事業との連携 「大阪府 20 世紀美術コレクション魅力発信事業」、「大阪府所蔵美術作品活用活性化事業」について、enoco 指定管理者と連携を図りながら、実施することができた。 ○来年度も、指定管理者と連携し、作品の展示や修復に取り組む。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○江之子島文化芸術創造センター（enoco）管理運営事業については、来館者数、文化芸術関連活動に関わる個人・団体数、創造的活動に協働した個人・団体数など、主要な指標において目標値を上回る成果を挙げており、文化芸術拠点として着実に機能している点を評価する。特に、企画展の開催やワークショップ、貸館事業などを通じて多様な文化芸術活動が展開されており、府民が文化芸術に触れる機会の創出に寄与している。 ○企画展については、現代美術作家とのコラボレーションによる展示など、新たな来館者層への訴求が見られる取組が行われており、府外からの来館者も含め幅広い層の関心を集めている点を評価したい。また、万博関連事業とも連携したサイエンスアート作品の展示など、既存作品の修復や再活用を通じて新たな価値を提示する企画が実施されていることも、本施設の特徴を活かした取組として意義がある。 ○貸館事業については、展示室の利用率が目標値に届かなかったものの、これは周辺文化施設の再開館や施設改修など外的要因の影響も考えられることから一定程度やむを得ない側面がある。一方で、今後の継続的な利用促進に向けては、企画展やイベントによる認知度向上を貸館利用につなげる工夫や、新規利用者の獲得に向けた広報・ネットワークづくりを引き続き進めていくことが望まれる。 ○また、文化芸術に関心の低い層や新たな来館者層へのアプローチとして、施設内外でのワークショップや他事業との連携企画を展開している点は評価できる。屋外デジタルサイネージの設置など、施設の認知度向上に向けた取組も進められており、今後はこれらを活用して貸館事業や各種プログラムの情報発

		信をさらに強化していくことが期待される。 ○一方で、本施設では指定管理業務に加え、大阪府所蔵美術作品の活用やコレクション関連事業との連携など、業務内容が年々拡大している。限られた人員体制の中でこれらを実施していくにあたり、特に学芸員の業務負担が増加する可能性もあるため、運営体制や役割分担について適切に整理しながら、持続可能な運営を図っていくことが重要である。 ○さらに、本施設が大阪の現代アート拠点としての役割をより明確にしていくためには、企画展や貸館事業の成果を文化芸術関係者や批評・研究の分野とも接続し、文化的な議論や評価が生まれる環境を育てていくことも重要である。アート関係者にとって活動の拠点として認識されることが、結果として施設の認知度向上や新たな利用者の獲得にもつながる可能性がある。 ○本施設は、大阪府が運営する現代アートの拠点として、創造活動の場の提供、作品活用、次世代育成など多様な役割を担っている。また、第 5 次大阪府文化振興計画に enoco の役割として記載されている「文化芸術についての様々な情報の一元化」「府内の文化団体や芸術家等に対するのワンストップ窓口」といった機能は、アーツカウンシルの調査結果を踏まえても、早急な実現が求められる。今後は、次期指定管理者の選定を見据えつつ、財政面や運営体制を含めた持続可能な運営の在り方を検討するとともに、大阪の現代アートの発信拠点としての役割を一層強化していくことを期待したい。
C	オーケストラハウスの管理	【概要】 オーケストラハウス（服部緑地内）について、計画的な修繕の実施等により、適切に維持管理を行う。また、日本センチュリー交響楽団の練習拠点として、オーケストラハウスの練習室の貸付等を行う。 【実績】 ○オーケストラハウスの施設管理については、適宜補修などを行った。 <補修工事等> 【4 月】壁紙貼替工事、トイレタンク等の修繕 【7 月】雨漏り修繕工事 【8 月】非常用照明の取替修繕、音楽サロン等個別空調機設置工事 【1 月】屋外パネル修繕工事 【2 月】トイレ入口扉の修繕工事、ライブラリー室等個別空調機設置工事、雨漏り修繕工事 【3 月】トイレ入口扉の修繕工事、非常用照明の取替修繕、外壁塗装、雨とい清掃、樹木剪定・伐採 <定期点検> 【8 月】法定定期点検 【6 月・12 月】空調定期点検 【9 月・3 月】消防用設備機器点検 ○上記のとおり、法律上必要な点検や施設運営に必要な修繕など、適切な施設管理を実施した。 引き続き、施設を安全に利用できるよう補修工事等を行い、適切な管理に務める。 ○今後の大規模修繕については、財源が確保できた段階で、建物の活用方針等を改めて検討する。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○オーケストラやその他の大型の演奏団体にとって練習拠点の確保は極めて重要であり、本施設が使用団体の芸術水準向上に大きく寄与している。また、使用する楽団が質の高い音楽活動を継続することで、地域住民や子どもたちを含む幅広い層への文化的な成果の還元が可能となっている。特に大阪では、こうした施設の充実が地域の音楽文化の発展に直接つながっており、その意義は高く評価される。 ○しかしながら、現在施設の老朽化が進行し、補修が必要な箇所が増加している状況にある。単なる修繕に留まらず、将来的な施設の活用方法についても検討を行うべき時期に差し掛かっている。今後は関係機関との調整を進め、施設が引き続き地域の音楽文化の発展に貢献できるよう、適切な対応を図ることを期待する。
C	府内市町村との連携	【概要】 府内市町村に対する様々な情報の提供、文化行政担当者間における意見交換や府内での先進事例の共

有、市町村と連携した文化芸術事業の実施など

【実績】

○年度初め（4月中旬）に、府内市町村間の円滑な連絡体制の整備のため、各市町村の担当者連絡名簿を作成し、市町村へ共有を行った。

○令和7年7月9日に府内市町村文化行政主管課長会議を開催し、下記内容について情報共有を行った。

- ・文化庁 「文化庁京都移転を契機とした文化行政の展開について」
- ・大阪府 「大阪府文化課所管事業の概要」
- ・大阪アーツカウンシル「数字とストーリーのあいだで－文化芸術を“評価する”という挑戦－」
- ・府内市町村における事例の紹介
- ・泉大津市 「泉大津市の文化芸術振興に関する事業について」
- ・東大阪市 「東大阪市文化創造館 施設紹介と文化芸術事業について」

○令和8年1月末に府内市町村における取組み事例集を更新し、市町村間で共有を行った。また、公表できる取組みについては、令和8年2月初旬に府HPに掲載し、一般に公開した。

○市町村の担当者連絡名簿については、実際に市町村の担当者から「活用している」との声が寄せられている。

○府内市町村文化行政主管課長会議の開催を通じて、文化庁・本府・大阪アーツカウンシル・府内市町村での各取組みについて情報交換を行うことができ、会議後に実施した参加者アンケートでも満足度は概ね高かった。その一方で、参加者アンケートの自由記述欄では、「もう少し市町村目線での情報発信を」「参加者同士でざっくばらんに情報交換できる時間があれば嬉しい」など様々な意見も寄せられ、これらの意見を次年度以降の会議を改善するための検討材料としていく。

【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】

○府内市町村文化行政主管課長会議は、文化芸術に関する先進事例の共有や市町村間の連携促進を目的として開催されており、本年度も文化庁、大阪府、大阪アーツカウンシル、市町村による取組事例の紹介などを通じて、文化施策に関する情報共有の場として一定の役割を果たした。府内自治体間のネットワーク形成に寄与している点は評価できる。

○特に、市町村による取組事例の紹介は参加者アンケートでも満足度が高く、各自治体の施策検討に資する実践的な情報として有効であったと考えられる。一方で、文化庁や大阪府の取組紹介については昨年度と同様の内容も多く、市町村の実務に直接活かすにくいとの意見も見られた。今後は、市町村の施策や事業に具体的に応用できる視点での情報共有のあり方について検討することが望まれる。

○また、年度当初に作成・共有された市町村文化行政担当者の連絡名簿は、自治体間の問い合わせ等実際に活用されているとの声もあり、横の連携を支える基盤として有効に機能している点は評価できる。

○府内市町村の文化事業に関する取組事例集についても、各自治体の文化事業を把握する資料として有用であり、大阪府ホームページで公開したことにより府民への情報発信にもつながっている。今後は、事例の整理方法などを工夫し、より活用しやすい資料として充実させていくことが期待される。

○会議運営に関しては、参加者同士が自由に意見交換できる時間を求める声も見られた。テーマ別の意見交換やネットワーキングの機会を設けるなど、市町村間の実務的な交流を促進する仕組みを検討することも有効と考えられる。あわせて、府と市町村が文化芸術の公共的価値や地域における役割について共通認識を深め、府域全体で文化振興を推進していくことを期待したい。